

福知議員（民主県政会）

令和4年6月16日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 学び上手になるための「学びの変革」について

「上手な勉強の仕方がわかる」「授業が楽しい」と感じられることが、学習意欲の向上、ひいては長期欠席や不登校、自殺の防止につながると考えるが、教育長の示す、学び上手になれるような「学びの変革」とは具体的にどのようなものなのか、教育長へ伺う。

(答)

本県が進める「学びの変革」におきましては、生涯に渡って主体的に学び続けることができる、いわゆる「学び上手」になれるよう、児童生徒一人一人が、自分に合った学び方を身に付け、探究的に学ぶことの楽しさを実感することが重要であると考えております。

小学校では、例えば、一人1台のデジタル機器を効果的に活用しながら、児童が自分の関心や学習の進捗等の状況に応じて、自分で学習の進め方を選択するなど、個別最適な学びの視点による授業づくりとその普及に取り組んでおります。

また、中学校におきましては、各教科等において課題解決型の授業づくりを行うとともに、実生活・実社会の「答えがない問い」と向き合い、協働して解決策を考え出すなど、生徒が探究的に学ぶ楽しさを実感できるような総合的な学習の時間のカリキュラムの開発に取り組んでおります。

高等学校におきましても、各学校・学科の特色を生かした探究的な学びの充実に向け、例えば、商業高校のビジネス探究プログラムでは、生徒が、「生きるとは何か」をはじめとした「本質的な問い」に向き合い、対話しながら、自分の考えを深めていくなど、商業を学ぶ意義や楽しさを実感するようなカリキュラムを実践しております。

引き続き、こうした優れた実践を全県に広げていくことにより、全ての児童生徒が学び上手になれるよう、「学びの変革」に取り組んでまいります。